議　　長	休憩に続き、会議を再開いたします。 次に、質問順位４番　６番議員　上田丈二議員。
議　　長	上田議員。
上田議員	それでは、通告に従って質問いたします。最初の質問事項ですけれども給食センター建設事業について質問いたします。 給食センター建設については、以前より同僚議員より、度々質問がでています。 本日も同僚議員より質問がでております。 質問が同様にかぶるところがあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。 先ほど理由について、お話をいただいたところですけれども、給食センター建設の理由としては、老朽化が進み、これ以上の改善や修理では、給食センターで勤務されている方の現場の環境改善や、食の安全の確保が困難で、緊急性が極めて高い事が最大の理由だと思っております。 また、学校給食を自治体が主導して実施をする事には、お腹を満たすだけでなく、教育、福祉、地域経済などの視点から、大きな意義があるとされています。 意義については、地域特性を活かした食育の推進として、地域の伝統料理や特産品を食に取り入れることで、地元の食文化や、歴史を学ぶことができる、とされています。 また食の安全・安心の確保として、アレルギー対応や異物混入のリスク管理を、自治体独自の厳しい基準で行えます。 そして、冷凍食品や加工食品に頼らない「手作り給食」の割合を増やす事が、可能となってます。 また、最も重要な点では、和木町はどの自治体より早い段階で、給食費の無料化や補助を実施してきた、というという実績にある、と思っています。 このような理由で、給食センターの建設がすすめられていると認識をしてるところです。

給食センター建設の事業の財源については、この同僚議員より質問があり、今日も質問がされました。米空母艦載機部隊配備特別交付金を活用し、今までこの交付金を活用していた基金についても十分な積み立てがあり問題なく、負債額が生じても支障をきたさない計画である、と本日も説明を受けて、満足しております。

その上で最初の質問なんですけれども、被ってしまうんですけれども、町で給食センターを建設するのではなく、例えばですね、大竹市や岩国市の自治体が運営をしている給食センターで和木町の給食を作っていただけるという事は、出来ないかという質問をしようと思っておりましたけれども、先程、同僚議員からも質問があり、お答えをいただいて町長の選挙の公約、そして今述べました意義、それから全員分の給食を９００食すべてを賄うことは困難である。また山口産食材を使用するという目的が大竹市では困難である。こういったことが理由とされているということで理解をいたしました。

もしですね、これ以外に理由があるとすればどういった理由があるのか、っていうのがありましたら、よろしくお願いいたします。

議　　長　　坂本町長。

坂本町長　　はい、ただ今、上田議員より、給食センターの建設について先程、灰岡議員さんより大竹、岩国からの方法等については先程答弁した。それ以外の方法は何か理由あるのかということでございます。

大竹、岩国からは十分数が足りない、賄えないということでご理解いただきたいと思います。

そしてですね、給食センターを和木町独自に建設するという事は、先程も答弁しましたけども、私にとってですね、和木町の未来を担う子供たちにですね、安心・安全な給食を提供するという重大な責務であるとも考えております。

また、現在給食センターで働いている調理員や配送員のみなさんの「雇用の場を守る」ということも最も重要であると考えており、そのため、雇用の場を無くすことなく、引き続き、給食センターで働いていただくためにも、町内に新たな給食センターの建設は必要であると、このように考えております。

なお、現在の給食センターは、昭和５１年に供用開始となり現在までに５０年が経過をしております。施設及び設備の老朽化は年々進行しており、これまでも、機器の修繕や更新など多額の予算を費やす中、今後の維持管理に要する経費の増加も懸念をされております。また、昨今の建設事業費、建設コストの高騰化を鑑み、スピーディーに取り組む必要があるとの思い、給食センター内の空調設備や高度な衛生管理、先ほども申し上げましたが、働いている調理員さんの作業環境を一刻も早く改善したいとの強い思いから、新たな給食センターを、早急に建設する必要がある。このように考え、令和１２年の供用開始をめざし、今年度からの事業を開始したところでございますのでご理解いただきたいと思います。以上でございます。

上田議員　はい、議長。

議長　上田議員。

上田議員　はい、その他の理由では給食センター老朽化で改修、改善をしてきたけれども、なかなか環境改善が進まず、そこで頑張っておられた給食センターの方の職の、職場ですね、の確保、これも重要であると考えてるということで理解をいたしました。

２つ目の質問ですけれども、建設予定では、先程も同僚議員からもありましたけれども、給食ですね、９００食を作る能力があるといることですけれども、現在残念なことに人口減少が進み、子どもの人数も減ってきております。将来的に作る給食数も減っていき能力を余す施設になってしまうのではないかと思っているんですけれども、これについての別にそれが目的

ではないし、食が、９００食を作る能力という問題ではないということで理解をいたしました。

ですが、建設費用も１０億、１５億４千万掛かります。それから物価高騰が続く状況では、建設費用も増額するのではないかという懸念があります。

質問ですけれども、この１５億４千万以上の建設費用をかけるのであれば、出来ればですね、給食を作るだけの施設でなくて、町民の方が活用できる施設としての複合施設や災害時の避難場所や災害時の倉庫としての活用など、多目的な利用施設として建設計画を考えることは出来ないでしょうか。伺いたいと思います。

議　　長　坂本町長。

坂本町長　はい、ただ今、上田議員さんより１５億の建設費用掛けるのであれば、町民の方が活用できる複合施設、災害時の避難場所や災害時の倉庫等々活用できる多目的な利用施設との見当ができないとの、かとのご質問にお答えをいたします。

新たな学校給食センターにつきましては、環境面も含め、調理員さんが効率的で、仕事がやりやすい場として建設することは、大変重要であると考えておりますが、町財政も大変厳しい状況でございます。建設コストを少しでも抑えるために、デザイン性もシンプルな建屋で、必要最低限の機能として、早期に建設することを考えているところであり、これまでの考えに変更はございません。

また、学校給食センターは、学校給食法に基づき、厳格な衛生管理基準が定められており、事務室と会議室を除き、調理に関係のない、直接関係のない方の立ち入りは、原則禁止されております。

議員がおっしゃる複合施設や、多目的な施設として、不特定多数の方が利用するためには、高度な衛生基準に基づいた、徹底したセキュリティと衛生対策を両立させた設計が不可欠と

なり、建築コストも大幅に増大することが予想されます。
　このようなことから、新たな給食センターは、必要最低限の機能として、建設費用もできるだけ抑え、未来を担う子どもたちに、安心・安全な給食を提供するため、早期の建設をめざしてまいりたい、とこのように考えております。

上田議員　議長。

議長　上田議員。

上田議員　はい、和木町で給食センターを建設する理由としては、学校給食を自治体が主導して実施する意義、それから他にも職員の雇用の確保、そして他の施設の運用ですね、それについては建設コストやそれから衛生面を維持することは非常に困難である、で緊急性もありますし、今現状でコストを抑えて早く建設を進めていきたい、という町長の思いは理解をいたしました。
　学校給食の継続は町民の願いでもありますので、計画が進み、新しい給食センターの完成を目指して頂きたい、と思っております。よろしくお願いいたします。
　続いての質問に移らせていただきます。
　次の質問ですけれども、融合を接続に訂正させていただきたいと思います。
　次のあいあいバスとＪＲ線との接続について、質問致します。
　最初の質問ですけれども、ＪＲ線の列車の到着時間に合わせた、あいあいバスの運行時間の調整、これ公共交通会議で行われると聞いているんですけれども、どのような形でで行われているんでしょうか、お聞きしたいと思います。

議長　松井企画総務課長。

松井企画　お答えいたします。まず鉄道とあいあいバスの円滑な乗り継

総務課長　ぎは、町民のみなさまにとってですね、利便性向上、それから公共交通の利用促進に極めて重要であるというふうに認識をしてございます。

その上で、あいあいバスの利便性向上につきましては、今年度５月に、瀬田便および関ヶ浜便の最終便におきまして、より多くの皆さまにご乗車いただけるよう、ダイヤ改正を実施したところでございます。

今後におきましても、運行状況、あるいは利用者の皆さまのご意見、こういったことを注視しながら、できる限りの範囲内で改善を今後も進めて行きたいというふうに考えております。

上田議員　はい、議長。

議長　上田議員。

上田議員　はい、この列車の運行状況、利便性を考えてダイヤ改正されているということなんですけども、なかなかこの接続に関して余裕をもった時間っていうのが、とれてないような気がするんですけれども、それについて調整が困難な状況ですよね、それについての理由があれば教えていただきたいと思います。

議長　松井課長。

松井企画総務課長　困難の理由はどういうことかということでございます。お答えいたします。

列車と、鉄道とですね、あいあいバスの時刻表を合わせることは少し難しい面もございます。あいあいバスでございますが、平日２台、土日祝日は１台という限られた車両台数で、まず運行をしてございます。この体制のもと、町内をできる限り網羅し、各地域へ１時間に１便という高い運行頻度を維持しつつ、さらには、運転手の確実な休息時間も確保しなければならない、現状しておるところでございます。その上で、１つの駅

に対しましては、列車の「上り」と「下り」の到着、それからバスの「到着」「出発」この計４つのタイミングを考慮しなければなりません。これらすべてのタイミングにおいて、最適な接続を設定するということは、限られたバス車両台数の中では物理的にも構造的にも困難である、ということをご理解いただければというふうに思います。

上田議員　はい、議長。

議長　上田議員。

上田議員　はい、理由については聞けばですね、納得するんですけれども、公共バスの運転手さん、確保が難しいという話も聞いております。和木町でもそうだと思います。そして上り下りのダイヤ全てを管理するのは、やはりちょっと難しいのかな、というのも分かるんですけれども。まあこの今までにもですね、この同僚議員よりあいあいバスの運行時間をＪＲの運行時間に合わせて調整を検討して欲しいとお願いを何度もしてきているとこなんですけれども、なかなかそういった形で調整が難しい理由わかりました。ですけれども高齢者の方にはですね、このバスの駅についてから１、２分しか余裕がない、こういった時もあるそうです。乗り遅れてしまうと病院の予約に間に合わないという声も聞いております。このできる限りの形でですね、ＪＲ線との乗り換えで全体でなくても、午前中の１０時までの時間とか、ある程度の使用の一番重要な時間帯ですね、その時間帯だけでも、このＪＲ線とわきあいあいバスとの接続の時間、この余裕を持ったダイヤ調整ってのはできないものでしょうか、伺います。

議長　松井課長。

松井企画　このバスのダイヤにつきましては、これまでも議員の皆さま

総 務 課 長　方、それから利用される方々のご意見を色々とお聞きしつつ、ダイヤを組まさしていただいておるところでございますが、先程の４つタイミングということもございまして、すべての方に良かったと思ってもらえるダイヤってのは、なかなか難しいというところでございます。

また、あいあいバスでございます。こちらの方は公共交通機関という面も持ってございます。バス、それから鉄道の時刻表等しっかりとご確認いただき、余裕をもったご利用いただければと思っております。

また先程、通院に間に合わないということもご意見も議員さん耳にされているということでございますが、私どももそういった町民の皆さまの声も確かに承ってございます。その中でできる限りのですね、ダイヤ改正、今後もしていきたいということでございます。ただ先程の４つのタイミングございますので、そこはまた議員さん方も町民の方々もご理解をいただきながら有効にですね、あいあいバスをご活用していただければありがたい、というふうに考えてございます。

議　　長　上田議員。

上 田 議 員　はい、お答えの中でできる限り町民の声を聞いて利便性の向上に努めていきたいということですので、是非よろしくお願いを申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。

議　　長　再質問がないようですので、以上で上田丈二議員の一般質問を終わります。